

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



6月の銅の概況および7月の見通し (3)

■国内概況まとめ

◆自動車生産

生産動態統計によると、5月の自動車生産台数は前年比-2%の60万4,356台。輸出は、前年同月比+1.4%の28万3,581台。

◆自動車販売

日本自動車販売協会連合会によると、6月の自動車販売台数（軽除く）は、前年比+25%の24万7,653台。

◆住宅着工戸数

5月の新設住宅着工は、持家、貸家、分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比34.4%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では、前月比15.6%の減少。

○新設住宅着工戸数は43,237戸

前年同月比34.4%減、2か月連続の減少

○新設住宅着工床面積は3,333千㎡

前年同月比35.9%減、2か月連続の減少

○季節調整済年率換算値では529千戸

前月比15.6%減、2か月連続の減少

◆伸銅品生産

2025年5月の伸銅品生産動向（速報値）」によれば、5万3,090トン、前年同月比0.1%減少した。3か月ぶりにマイナスとなった。国内自動車生産の回復と、北米向けの自動車関連の輸出が増えている。また車載向けの半導体の需要も回復している。スマートフォン向けも好調だが、それ以外のデジタル家電の需要が低調である。また、エアコンは、ビル向けなどの需要が不調である。

市場背景

●銅 条

前年同月比3か月連続プラス。近年では、22年以来的の多い生産量となっている。AI関連と自動車関連の半導体が増えている。ただ、車載向けの半導体の需要は、以前よりもまだ少ない。スマートフォンは、汎用から高級品、地域別に見ても満遍なく需要増加している。最新ゲーム機向けは良いが、それ以外の民生用コネクタの需要はまだ低調である。情報家電向けも中国の購買力低迷の影響が残り、低調である。

●銅 条

前年同月比5か月ぶりマイナス。需要状況は銅棒と似ている。

●電 線

出荷量 4万9,600トン（銅量ベース）

前年同月比 3%減

前年同月比は3.0%減少だった。これで7か月連続のマ

イナスとなった。これだけ長期のマイナスは、前回同出荷量が落ち込んだ2022年23年以来である。

◆輸 出

電気銅 -33% 6万3,820トン

スクラップ -14.8% 2万4,540トン

◆輸 入

電気銅 +428% 1,320トン

スクラップ +15% 2万5,822トン

■見通し

◆自動車

5月の自動車生産が-2%。6月国内販売台数が前年比+25%。駆け込み需要の反動減と政策支援の持続が拮抗し、プラス成長が見込まれるものの、輸出への不透明感により楽観は禁物の局面。

◆伸銅品生産

総生産5万3,090トン、前年同月比0.1%減少した。3か月ぶりにマイナスとなった。国内自動車生産の回復と、北米向けの自動車関連の輸出が増えている。また車載向けの半導体の需要も回復している来月も続きそう。

◆電 線

出荷量 4万9,600トン（銅量ベース）

前年同月比 3%減

前年同月比3.0%減少だった。これで7か月連続のマイナスとなった。これだけ長期のマイナスは、前回同出荷量が落ち込んだ2022年23年以来である。先行きは不透明。

■スクラップ景況予想

7月の銅スクラップ需給は「供給タイト+需要強」な構図が継続し、価格は高水準で推移する見通し。ただし、米中政策次第で急変もあるため、動向監視が不可欠。

■LME・為替予想

◆LME予想

●米関税・輸入政策の影響

トランプ政権による銅輸入関税が実施されれば、価格が一時的に1万ドル超もある。需給の混乱で一時的に9,000ドル割れを招くリスクもある。

●中国の経済動向

中国の不動産・工業需要が急減すれば、下値圧力が強まり、レンジ後半からの動きとなる可能性がある。

●為替予想 144円～147円

7月のドル円は、夏の薄商いとドル圧力で144～147円が中心見通し。

米経済指標次第では150円接近の可能性も、一方でリスクオフや四十日市況で143円台への反動も。

銅連値に関しては141万～158万円程度と予測。